

定期作況報告

(第4号 平成15年8月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

7月下旬：最高気温および最低気温は平年より各々2.6、4.9 低かった。降水量は平年より62mm 少なく、平年対比15%であった。降水日数は平年より5日少なかった。日照時間は平年より23.5時間多く、平年対比153%であった。夏日（最高気温25 以上）は7日間であった。

8月上旬：最高気温は平年より0.1 低く、最低気温は平年より1.4 高かった。降水量は平年より59mm多く、平年対比259%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より16.2時間少なく、平年対比68%であった。真夏日（最高気温30 以上）は2日間、夏日は3日間であった。

8月中旬：最高気温および最低気温は平年より各々0.4、0.2 高かった。降水量は平年より17mm 少なく、平年対比58%であった。降水日数は平年より2日少なかった。日照時間は平年より8.9時間多く、平年対比120%であった。夏日は8日間であった。

7月下旬から8月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	24.2	26.8	2.6	25.6	25.7	0.1	25.5	25.1	0.4	25.1	25.9	0.8
最低気温()	12.7	17.6	4.9	17.6	16.2	1.4	16.1	15.9	0.2	15.4	16.6	1.2
平均気温()	17.7	21.7	4.0	21.3	20.7	0.6	20.1	20.1	0.0	19.6	20.9	1.3
降水量(mm)	11	73	62	96	37	59	23	40	17	130	150	20
降水日数(日)	1	6	5	5	4	1	3	5	2	9	15	6
日照時間(h)	68.0	44.5	23.5	34.4	50.6	16.2	53.6	44.7	8.9	156.0	139.8	16.2

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : 不良

事 由：幼穂形成期以降の生育は7月の低温により緩慢になったものの、出穂期は平年に比べ中苗で2日、成苗で4日早かった。穂揃いは良好で穂揃い日数は各品種・苗とも平年に比べ1日短かった。最終止葉葉数は平年に比べ中苗および成苗の「きらら397」が0.2葉、中苗「ほしのゆめ」が0.7葉いずれも少なかった。稈長は各品種・苗とも平年に比べ約25%減となり、かなり短かった。穂長は中苗「きらら397」が平年よりやや長かったものの、中苗「ほしのゆめ」および成苗「きらら397」はやや短かった。㎡当たり穂数は各品種・苗とも平年より約10%多かった。8月20日現在、登熟中期に入っているが不稔粒がかなり多く観察され、減収することが予想される。

以上より、目下の作況は「不良」である。

表2 水稲の生育期節

品 種 苗	出穂期(月・日)			穂揃い日数(日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	7.27	7.29	2	5	6	1
ほしのゆめ 中苗	7.25	7.27	2	5	6	1
きらら397 成苗	7.22	7.26	4	6	7	1

注1) 平年値は平成8～14年7カ年のうち平成10年(最豊年)、平成14年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。ただし、「ほしのゆめ」は平成9～14年6カ年のうち同2年を除く4カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて早(出穂期)あるいは短(穂揃い日数)を示す。

表3 8月20日の水稲の生育

品 種 苗	最終止葉葉数(枚)		
	本年	平年	比較
きらら397 中苗	11.0	11.2	0.2
ほしのゆめ 中苗	10.1	10.8	0.7
きらら397 成苗	10.9	11.1	0.2

品 種 苗	稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/㎡)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	対比(%)
きらら397 中苗	50.7	66.6	15.9	17.4	16.6	0.8	741	693	48	107
ほしのゆめ 中苗	54.3	72.9	18.6	15.4	16.5	1.1	838	756	82	111
きらら397 成苗	52.0	66.3	14.3	15.2	16.6	1.4	793	713	80	111

注1) 平年値は平成8～14年7カ年のうち平成10年(最豊年)、平成14年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。ただし、「ほしのゆめ」は平成9～14年6カ年のうち同2年を除く4カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて減を示す。

2) 秋まき小麦： 良

事由： 穂数は両品種とも平年を上回り、千粒重は、中生の「タイセツコムギ」では登熟後半の低温で登熟が緩やかに進んだため、平年を2.3g上回ったが、この影響を受けなかった早生の「ホクシン」では1.9g下回った。子実収量は両品種とも平年を大きく上回り、特に、千粒重が平年を上回った「タイセツコムギ」が多収を示した。リットル重は両品種とも平年をわずかに上回った。

したがって、作況は良である。

表4 秋まき小麦の収量

品 種 名	穂 数 (本 / m ²)			総 重 (kg/10a)			子 実 重 (kg/10a)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ ホクシン	582	528	54	1409	1351	58	666	513	153
	652	595	57	1327	1421	94	630	558	72

品 種 名	子実重平年比 (%)			リットル重 (g)			千 粒 重 (g)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ ホクシン	130	100	30	775	764	11	41.6	39.3	2.3
	113	100	13	795	777	18	37.2	39.1	1.9

注1) 平年値は、前7か年中、平成9年、14年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

3) とうもろこし： やや良

事由： 初期生育は良好であったが、7月中旬～下旬の低温の影響で抽雄期は平年並～3日早く、抽糸期は平年より2日早くなるにとどまった。草丈は平年より高く、出葉数も平年を上回っている。

したがって、目下の作況はやや良である。

表5 8月20日のとうもろこしの生育

品 種 名	抽 雄 期 (月日)			抽 糸 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ P3732	7.22	7.25	3	7.28	7.30	2
	7.30	7.30	0	8.4	8.6	2

品 種 名	草 丈 (cm)			出 葉 数 (枚)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ P3732	291	279	12	18.2	17.7	0.5
	337	308	29	19.2	18.8	0.4

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年、13年を除く5か年の平均値。

2) 平成10年度より栽植本数を7576本/10aに変更した。

3) は平年より早を示す。

4) 大豆： やや不良

事由：事由： 両品種とも主茎長は平年より若干長く、主茎節数はほぼ平年並であった。分枝数は「トヨムスメ」で平年より少なく、「トヨコマチ」はほぼ平年並である。開花から着莢期に当たる7月中・下旬の干ばつ傾向と低温の影響で、着莢数は両品種とも平年を若干下回っている。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表6 8月20日の大豆の生育

品 種 名	主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	64	61	3	10.3	10.3	0.0	6.6	7.7	1.1
トヨコマチ	66	64	2	11.3	10.9	0.4	6.9	7.0	0.1

品 種 名	着 莢 数 (個/株)		
	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	79	84	5
トヨコマチ	81	84	3

注1) 平年値は、前7か年中、平成9年(最豊)及び平成8年(最凶)を除いた5か年の平均値。
2) は平年より減を示す。

5) 小 豆： 平年並

事由： 開花期は両品種とも平年並であった。主茎長は「サホロショウズ」で平年より短く、「エリモショウズ」ではほぼ平年並である。本葉数は「サホロショウズ」で平年並となり、「エリモショウズ」では平年を若干上回った。分枝数は両品種とも平年を上回っている。開花期前後の干ばつと低温の影響から着莢に遅れがみられたが、8月以降気温が回復し、十分な降雨もあったため、現在までの着莢は順調である。

したがって、目下の作況は平年並である。

表7 8月20日の小豆の生育

品 種 名	開 花 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			本 葉 数 (枚)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	7.21	7.21	0	53	64	11	10.8	10.8	0.0
エリモショウズ	7.24	7.24	0	62	59	3	12.1	11.2	0.9

品 種 名	分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	6.7	5.3	1.4
エリモショウズ	6.4	5.4	1.0

注1) 平年値は、前8か年中、平成14年(最豊)、平成11年(最凶)及び平成12年(参考)を除いた5か年の平均値。
2) は平年より減を示す。

6) ばれいしょ： やや良

事由： 「男爵いも」では、7月第5半旬に倒伏が始まり、第6半旬にはほとんどの株が倒伏に至り、8月に入ってから茎葉の黄化・枯葉が徐々に進行した。「農林1号」では、前期に引き続き茎長は平年値を下回っている。

過去3年間の試し掘りの結果と比較すると、株当たり上薯数は両品種とも2～3個少ないものの、10a当たり上薯収量は15%前後多く、澱粉価も1%程度高くなっている。

したがって、目下の作況はやや良である。

表8 8月20日のばれいしょの生育

品種名	茎長(cm)		
	本年	平年	比較
農林1号	59.7	79.5	19.8
男爵いも	-	-	-

注1) 平年値は、前4か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

7) てんさい： 平年並

事由： 7月下旬～8月中旬までの気温は平年並～低く経過し、降水量は8月上旬が平年より多かったものの7月下旬、8月中旬は少なかった。このため、茎葉の生育は引き続き緩慢であったが、8月以降の降雨により、根部の肥大が進み、根周は平年をやや上回っている。

したがって、目下のところ作況は平年並である。

表9 8月20日のてんさいの生育

品 種 名	草丈(cm)			生葉数(枚/株)			根周(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
モノホマレ	46.4	61.8	15.4	23.9	28.4	4.5	31.5	28.7	2.8

注1) 平年値は前7か年中、平成10年、11年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。